

KLLP最終発表会 岡島ゼミ I の取組

大阪大谷大学人間社会学科

1

目 次

取組の背景

取組の目的

取組の内容

取組の成果

2

富田林市は、比較的初期からSDGsに熱心な土地柄である



ひろげる
いかす
つなげる

2019年7月作成・公表

3

2020年7月、内閣府からSDGs未来都市選定



SDGs 未来都市
富田林
ACT FOR 2030

さらに **自治体SDGsモデル事業の採択**

4

SDGsの取組インパクトは？

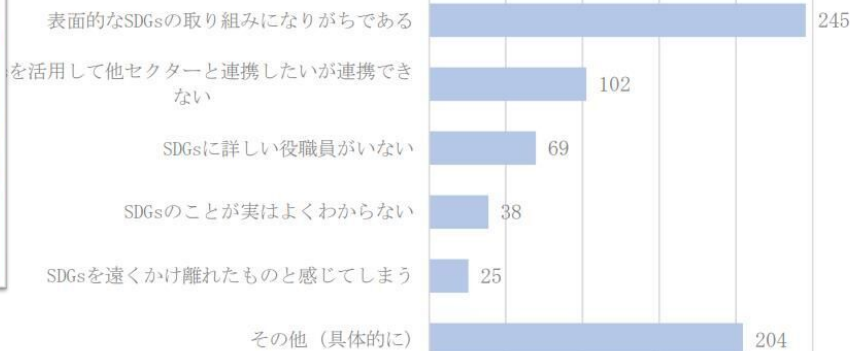


図 23 SDGs への取組みにおける課題(N=584、単位：団体)

5

取組の目的

金剛地区におけるSDGsに関する取組をきちんと調べたわけではないが、このような全国の傾向は金剛地区にもあてはまるのではないかな？



既存の取組を大事にしながら、一味違うSDGsの取組を研究して、その結果を地域の市民・市民団体や行政関係者等と共有する

そのことが、将来、より持続可能な地域の基盤づくりにつながることを期待される

11 住み続けられるまちづくりを



6

取組の内容

突然ですが……人間の身体の調子を理解するための指標にはどんなものがあるでしょうか？

まちの調子を理解するための指標にはどんなものがあるでしょうか？

7

取組の内容①

SDGsのグローバル指標のローカル化に関する文献を読む

NPO法人「人間の安全保障」フォーラムの取組に関する書籍



8

取組の内容②

★人間の安全保障を活用した事例の紹介

ゼミ生による研究発表

★黒部市社会福祉協議会の事例の紹介

小柴徳明さんによるご講演

大阪大谷大学 人間社会学部人間社会学科 岡島ゼミⅠ主催

富山県黒部市事例紹介講演
+ 岡島ゼミⅠ研究発表

SDGsを深掘りする

17 パートナリッヅで目標を達成しよう

グローバル指標のローカル化というチャレンジとその可能性

2024年10月20日 13:00-15:10

無料

会場：黒部市役所 会議室2F (黒部市役所本庁舎2階202号室)

定員：40名程度まで

申込：2024年10月15日(火) 15:00迄 (先着順)

申込先：黒部市社会福祉協議会 企画課 076-832-2111

主催：黒部市、独立行政法人都市再生機構、富山県社会福祉協議会、市内各野村社会福祉協議会

お問い合わせ先 / 大谷大谷大学 人間社会学部 岡島研究室 okajim@osaka-chitani.ac.jp

9



「人間の安全保障」指標とは何か？

④特徴： a) 尊厳の数値化。b) 主観的データの考慮。c) 分かりやすさの追求といった特徴がある。

<人間の尊厳の数値化>
子ども・女性に対する暴力、公への信頼、地域社会の絆、連帯感、国際性、多様性、満足度、総合計画や男女共同参画での尊厳の重視度、子どもの虐待相談、子どもの居場所などをもちいて、尊厳を数値化しようとしていることが特徴的。

<主観的評価の活用>
(客観的な統計データに加えて) 住民の主観的な評価を加味し、データを補完していることが特徴的。

<分かりやすさの追求>
①データは平易化を行ない、好ましい状態を1、好ましくない状態を0とし、どのくらい好ましいか・好ましくないかを分かりやすくした上で、②③をもとに、地理情報システムを用い、地図上でどこが好ましい状態に近いかが読み、可視化していることが特徴的。

「人間の安全保障」指標とは何か？

の構成： 国連決議の共通理解のもとで、[命][生活][尊厳]の3領域で構成。

命 指標 (26)	尊厳 指標 (25)
命 関連指標 (13)	G 子どもなどの尊厳 関連指標 (6)
命 健康 関連指標 (13)	H 公への信頼・エンパワー 関連指標 (6)
生活 指標 (48)	J 地域の連携 関連指標 (11)
食・産業・雇用 関連指標 (14)	K 満足度 関連指標 (2)
育 関連指標 (11)	
E 福祉 関連指標 (9)	
F 自然・生活習慣 関連指標 (14)	

合計で99指標

10

取組の成果（学生）

地域指標についての学び

- ・ 実際にあてはめは大変ということが分かった
- ・ 住民自身が指標を選ぶなどのアクションをつうじて住民自治の基盤強化につながる可能性があることに気づいた

地域課題とその現状，対策についての学び

- ・ 指標を見ながら，地域課題の多様性，数値を追うなかで現状についての理解が深まった
- ・ 市民協働の可能性（協働の取組のなかから議員が生まれるなど

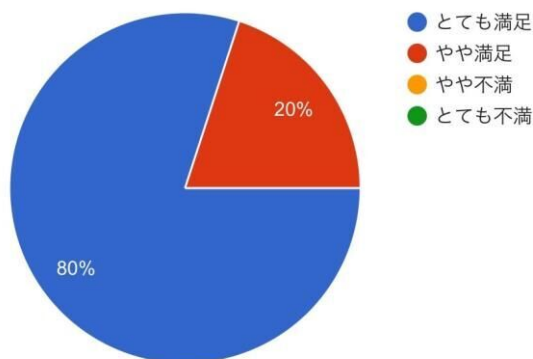
11

取組の成果（住民等）

講演会後に参加者にアンケートを行なった。
参加者のうち全員ではないが、20人の方が回答してくださった。

Q1.講演会の満足度を教えてください。

Q2.よろしければ、満足度を上4つのいずれかに判断された理由をお教えてください。



- ・ 「社会をもっと見える化できれば、市民は社会に参加する」「市民の意識が低いのではなく、見える化できていないだけ」というのが、心に刺さった。
- ・ 自分事に落とし入れる作業に結び付けるヒントにをいただけたかと思います。

12

KLLP最終発表会 岡島基礎ゼミⅡの取組

大阪大谷大学人間社会学科
2回生 伊東 賢伸

1

目 次

取組の背景

取組の目的

取組の内容

取組の成果

2

取組の背景①

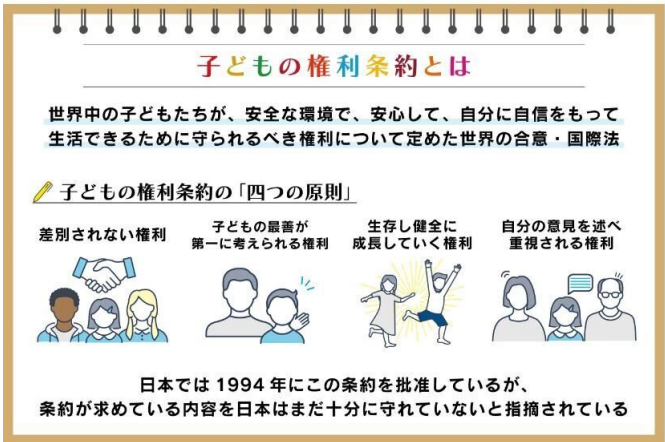


富田林市では、「富田林版「子どもまんなか社会」の実現」を目指して、子どもに関する施策の充実が進んでいる。

なかでも、市全体で子どもの権利を理解・尊重し、子どもの最善の利益を図り、すべての子どもの生命・生存・発達の権利や意見表明権を保障するため、**2年間をかけて、子どもの権利に関する条例**を制定する予定。

3

取組の背景②



岡島基礎ゼミⅡでは、ここ数年、現代社会コースにあるゼミとして、

「子どもの権利」というレンズをとおして見えてくる現代社会の特徴を知る

という取組を行なってきた。

出典： 朝日新聞社（2024）「子どもの権利条約とは？ 内容や四つの原則、課題をわかりやすく解説」『SDGs Action HP』

4

取組の目的

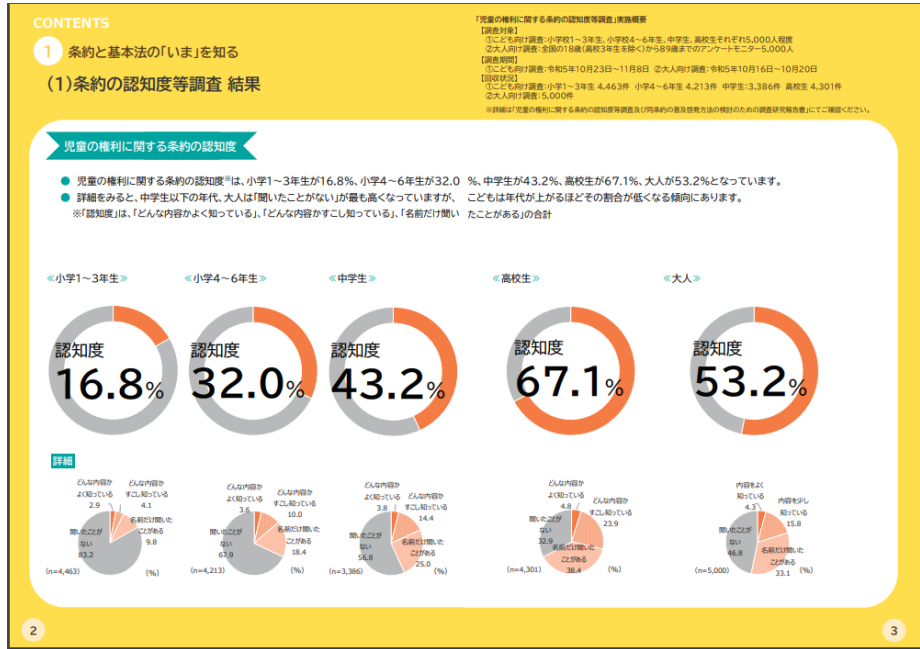
この富田林市の子どもの権利に関する条例制定に関して、（条例本文に何が書き込まれるべきかということも重要であるが）条例制定の過程において、子どもを含む市民や、行政・企業・市民団体・学校等の関係者間で子どもの権利についての普及啓発が進むことも重要と認識し、

岡島基礎ゼミⅡとしては、

1人でも多くの子どもたちとおとなが「子どもの権利」に関して、基本的な知識と関心を獲得するプロセスに貢献すること

を目的とする取組を行なうこととした。

5



6

取組の内容①

- (1) 文献読み
- (2) 他団体が作成した子どもの権利学習ツールの体験
- (3) 子どもの権利授業の実践

【日時】2024年7月17日（水）
 【場所】富田林市立高辺台小学校
 【対象】6年生1組・2組
 【内容】①子どもの権利条約の基本解説
 ②気になる権利を探せワーク
 ③子どもの権利かるたの実践



7

取組の内容②

【日時】2024年9月21日（土）
 【場所】大阪大谷大学カトレアホール
 【対象】市民・市民団体・市職員・本学の教職員・学生
 【内容】①吉村善美氏（富田林市長）ご挨拶、
 ②野村武司氏（東京経済大学教授・弁護士）
 講演



8

取組の成果①（学生）

学び方についての学び

・子どもの権利かるたを用いたが，学び方としてのメリットとデメリットについて学べた。

子どもの権利を教えることについての学び

- ・大人は子どもに対して子どもの権利を教える責任があることは知っていたが，自分自身が教壇に立つことでそれが腹落ちした。
- ・わかりやすく，しかし，誤解のないように教えることの難しさも感じた。
- ・子どもと接することは楽しいことだと分かった。

9

取組の成果②（子どもたち）

学び方についての学び

・身振り・手振りを入れた授業だったため，子どもの権利の本質（安心・自信・自由）に関する理解が進んだ・・・という感想が多かった。

子どもたちからの感想（例）

「権利ってたくさんあるんだなと思った」

「かるた，たのしかった。とくに「あ」のありのままの自分がとてもいい権利だと思った」

「このまえも権利のべんきょうをしたけど，さらに理解が深まった」

「子どもの権利条約のことがよく知れた。かるたで楽しく学ぶことができた」

10

KLLP: 学びの場創出プロジェクト

大阪大谷大学 教育学部教育学科学学校教育専攻
今宮ゼミ: 北見・小中・西・橋本・平野・増本



目次



1. K L L P : 学びの場創出プロジェクトにおけるコンセプト

2. これまでの活動

3. 実際の活動記録

4. 訪問者のはがき新聞から

5. 今後の見通し



1. K L L P : 学びの場創出プロジェクトにおけるコンセプト

Con-tact Square



子どもたちにとって…**安心できる自分の居場所**



自分たちにとって…**子どもたちと共に学び、
共に成長できる場所**

—子ども支援を通して、日々学びのある活動—

2. これまでの活動



2. これまでの活動

’24 8月 : 活動開始

・子どもは夏休み真っ最中

➡『楽しい』をもっと!!

～一緒に宿題をやっつけよう大作戦!!～
を実施。

・それに伴い、当初予定していた活動時間帯を変更。

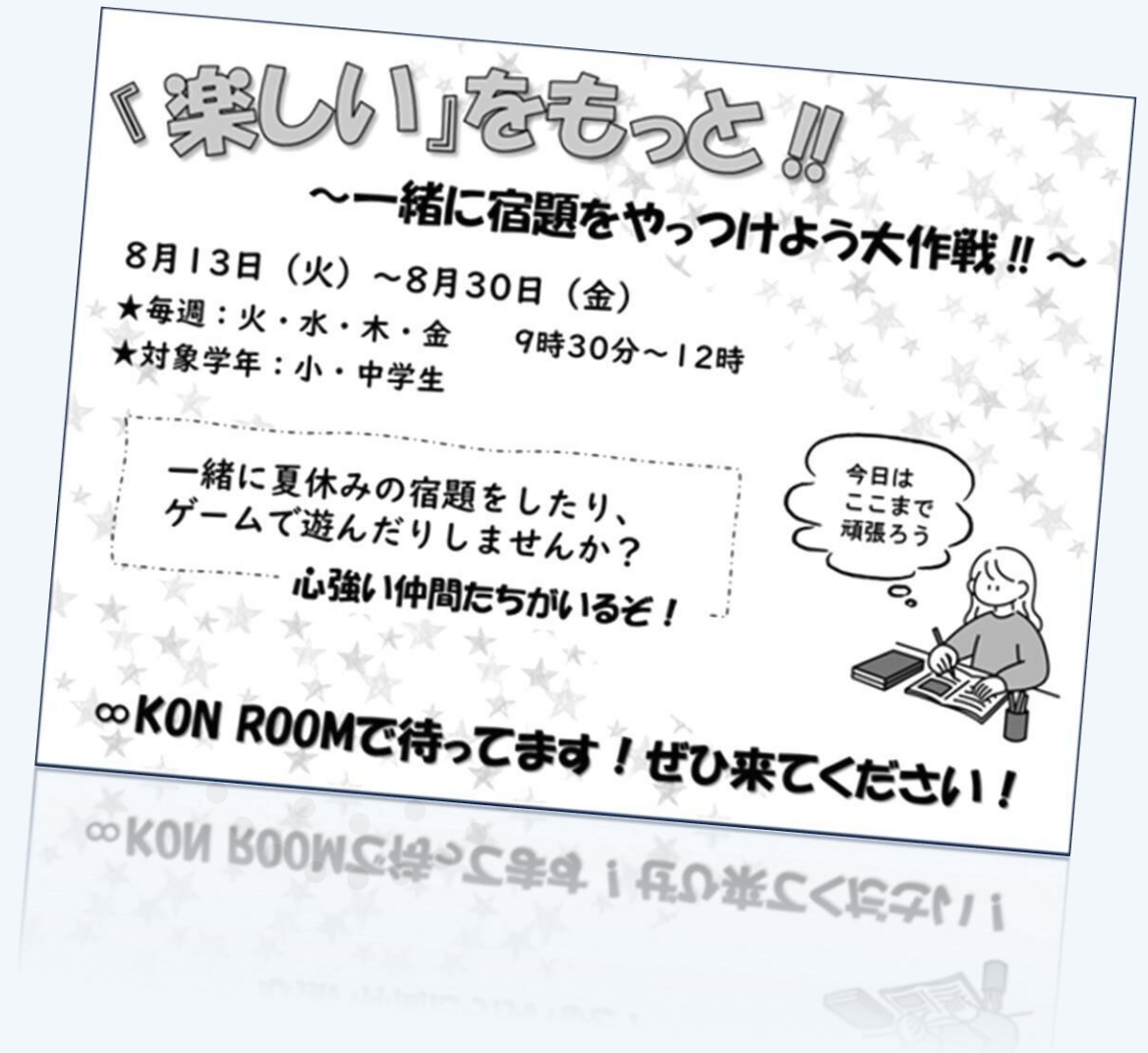
➡放課後の時間帯である**15:00**から

子どもの来訪が多い**9:00～12:00(午前中)**へ

訪問者の感想より…

・様々な子ども理解へと繋がった

・子どもと実際に関わることで見えてくる
「リアルな姿」



2. これまでの活動

’24 8月 : 活動開始

- ・子どもは夏休み真っ最中
➡『楽しい』をもっと!!
～一緒に宿題をやっつけよう大作戦!!～
を実施。
- ・それに伴い、当初予定していた活動時間帯を変更。
➡放課後の時間帯である**15:00**から
子どもの来訪が多い**9:00～12:00(午前中)**へ

訪問者の感想より…

- ・様々な子ども理解へと繋がった
- ・子どもと実際に関わることで見えてくる
「リアルな姿」

分からない所や質問には
順次応えます！



子どもたちが作成した
ケーキ型貯金箱(上)

夏休みの宿題を
手伝っている様子(左)

2. これまでの活動

’24 9月 : 初のイベント参加

- ・子どもたちは夏休みが終わり、2学期に突入。
➡訪問の時間帯を再度変更(15:00~へ)

・金剛地区のイベント

「**金剛てんこもりフェス**」へ初参加!!

参加者の感想より…

- ・**幼児期～小学校低学年の子どもが多く、**
新鮮な気持ちで関わることができた
- ・**子どもの豊かな想像力に触れ、**
良い刺激になった。



ワークショップの様子
(右上)

作品の展示(右)

2. これまでの活動

'24 10~12月 : 通常活動継続

- 委員会や大学での課題、アルバイトなどがあって活動は**停滞気味**に...

➡大学では**志学祭**がありました！

- 今宮ゼミで何度か集まり、今後のことについて話し合いを進めた

➡人員増加のための**チラシ作り**や
面接項目の作成

- 活動の継続**を意識

➡都合がつく人は週1でも訪問



第59回『志学祭』

11月9日(土)
11月10日(日)

テーマ:『一心(いっしん)』



➡募集チラシ

KLLP訪問者募集 面接項目

●基本事項

- ☐学部学科学年、名前
- ☐取得志望免許・資格
- ☐教員志望なのか
- ☐シフト希望について(週何回入れるか)

●KLLPの活動に関して

- ☐なぜ、KLLPに参加したいと考えたか(参加の目的)
- ☐KLLPでの活動を通して何を学びたいか。
- ☐子どもだけでなく、地域の方々や保護者とも関わることになるが心配なことや不安なことはないか。

●子どもについて

- ☐子どもは好きか
- ☐小中学生に勉強は教えられるか。
- ➡得意科目・苦手科目を聞く
- ☐自分はコミュニケーション能力が高い方だと思うか。
- ☐子どもの関わりについて、何か心配なことや不安なことはないか。

●その他

- ☐趣味は何か
- ☐ストレス発散方法はあるか、それは何か

➡面接項目

The background features a light blue rounded rectangle. To its left are several decorative elements: a large circle with horizontal lines, a solid blue circle, a grey circle with concentric circles, and a grid of dots. A faint grid pattern is also visible in the bottom right corner of the blue rectangle.

3. 実際の活動記録

3. 実際の活動記（8月）



子どもの利用者が多く、
需要が高い

- ・その内のほとんどが「宿題」や「勉強」などの目的で利用している。
- ・夏休み期間ということもあり、
小学生の利用者が多かった。
- ・『大人』の内、多くはご年配の方々が利用していた。



長期間の休みは宿題が多く出されるため、∞KON ROOMを活用して宿題に取り掛かる子どもが多い !!

<2024年8月、訪問日における来訪者の人数、並びに活動内容>

8月	子ども	大人	活動内容
8日(木)	10名程度	5名程度	ラジオ体操
9日(金)	8名	2名(保護者の方含む)	ラジオ体操、ケーキ貯金箱づくり(イベント参加、助力)
14日(水)	5名程度	不明	ラジオ体操、一緒に宿題をやっつけよう大作戦!!
15日(木)	7名程度	2名	ラジオ体操、一緒に宿題をやっつけよう大作戦!!、カードゲーム等
21日(水)	5名	1名	ラジオ体操、一緒に宿題をやっつけよう大作戦!!、遊び
22日(木)	4名	不明	ラジオ体操、一緒に宿題をやっつけよう大作戦!!
23日(金)	0名	3名	ラジオ体操
28日(水)	不明	不明	ラジオ体操、塾の宿題サポート、カードゲーム
30日(金)	0名	不明	ラジオ体操、今後の活動の方針決め

※「不明」については記録不足のため

3. 実際の活動記録（10～11月）



通常通学がある平日は
中高生の利用者が多い

- ・小学生の利用者は8月（夏休み期間）と比べて大幅に減少。
- ・中高生が課題やテスト勉強をするためによく来訪していた。
- ・友達と一緒に来ている確率が高く、勉強に集中できない様子も時折見受けられた。

＜2024年10月、訪問日における来訪者の人数、並びに活動内容＞

10月	子ども	大人	活動内容
16日(水)	6名	0名	学習指導、カードゲーム
24日(木)	2名	0名	学習指導、生活支援
31日(木)	3名	0名	学習指導、生活支援

＜2024年11月、訪問日における来訪者の人数、並びに活動内容＞

11月	子ども	大人	活動内容
6日(水)	8名	0名	学習指導
21日(木)	9名	2名	学習指導

※諸事情により訪問頻度が減少しております。

3. 実際の活動記録（10～11月）



通常通学がある平日は
中高生の利用者が多い

- ・ **小学生**の利用者は8月(夏休み期間)と比べて**大幅に減少**。
- ・ **中高生**が**課題**や**テスト勉強**をするためによく来訪していた。
- ・ 友達と一緒に来ている確率が高く、勉強に集中できない様子も時折見受けられた。

10月	子ども
16日(水)	6名
24日(木)	2名
31日(木)	3名

11月	子ども
6日(水)	8名
21日(木)	9名

＜10月の学校種別、子どもの来訪者数＞

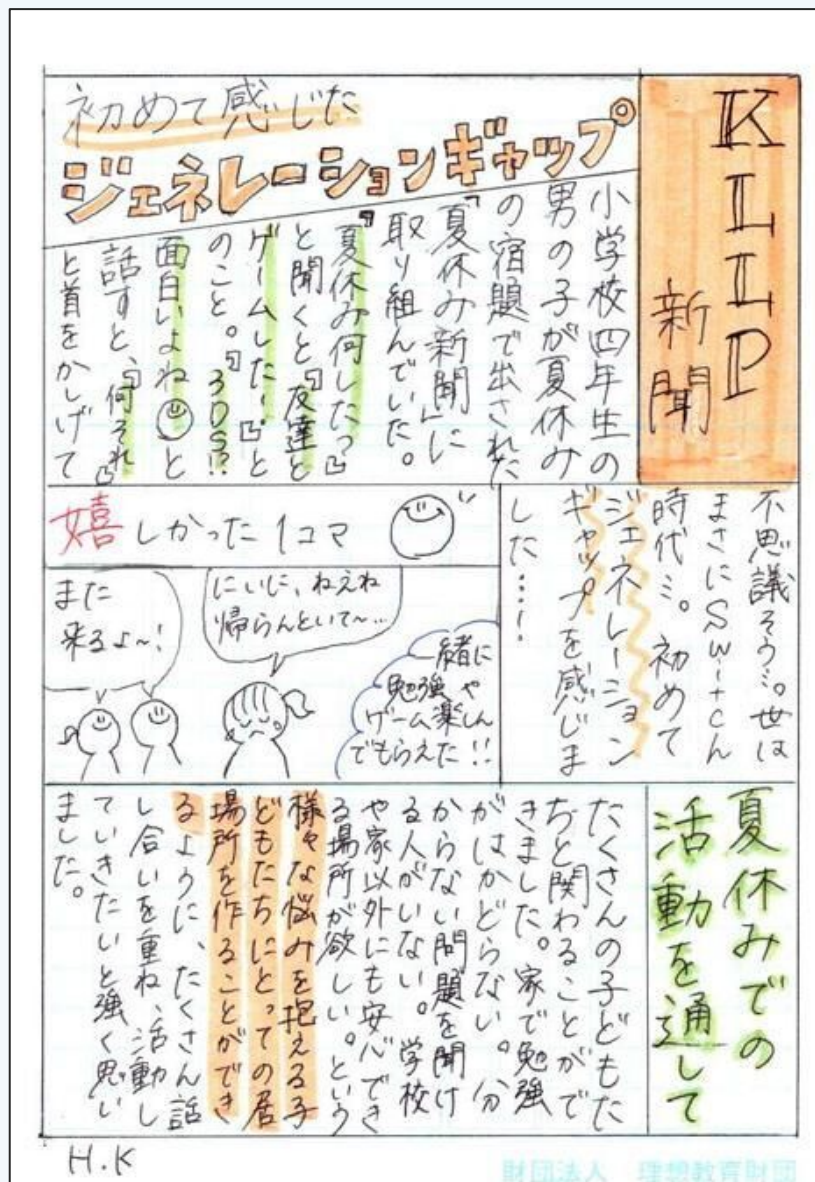
10月	小学生	中学生	高校生
16日(水)	6名	0名	0名
24日(木)	1名	0名	1名
31日(木)	1名	2名	0名

＜11月の学校種別、子どもの来訪者数＞

11月	小学生	中学生	高校生
6日(水)	2名	5名	1名
21日(木)	0名	7名	2名

4. 訪問者のはがき新聞から

4. はがき新聞から



KLLPでの活動での発見と子ども理解

- ・ ジェネレーションギャップ
- ・ 子どもたちの不安や悩み、抱えている問題
- ・ 子どもの居場所作りの重要性
- ・ 子どもに寄り添うための力

大学生の“気づき”や子ども理解のための能力などについて考えるきっかけに

4. はがき新聞から

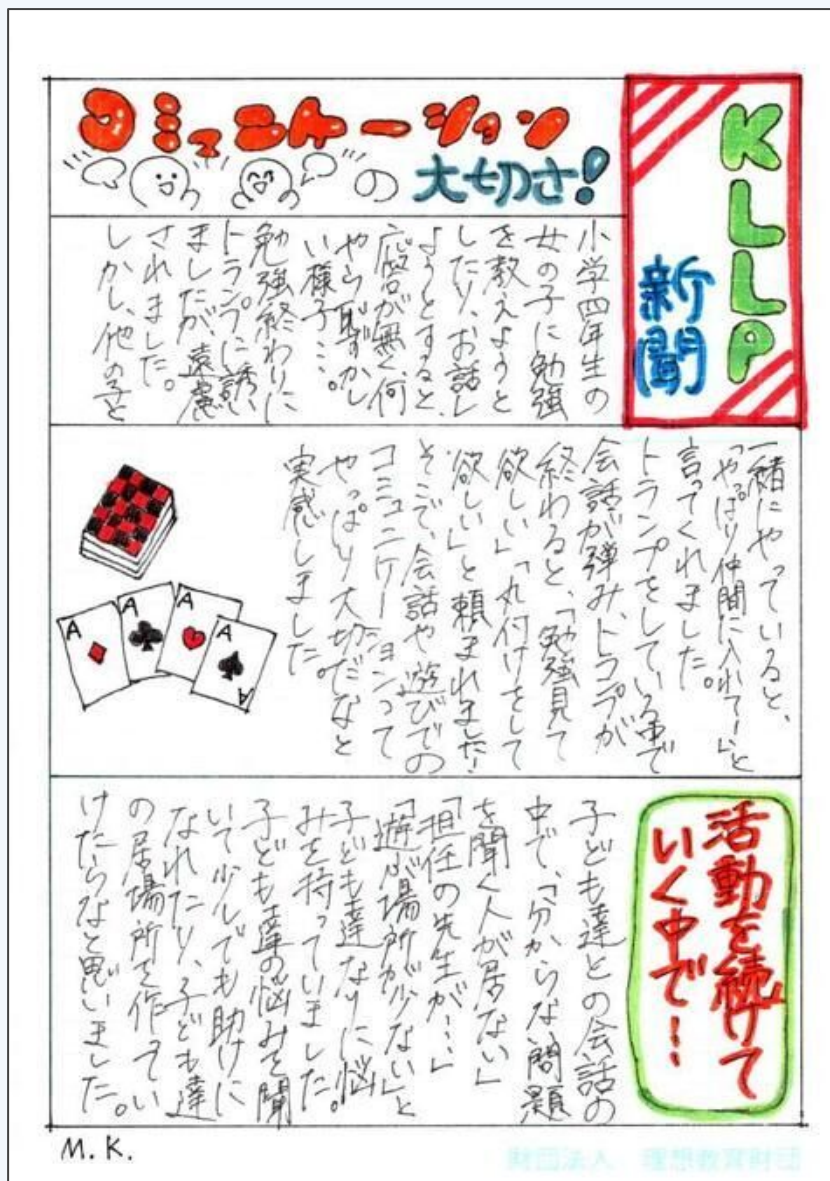
KLLPでの活動での発見と子ども理解

- ・ 幅広い年齢層との出会い
- ・ 子どもたちの不安や悩み、抱えている問題
- ・ 子どもたちを見る、洞察力
- ・ 子どもたちとの交流、信頼関係の構築

子どもたちとどのように関わっていくか、
自分はどう変わっていくかを考える



4. はがき新聞から



KLLPでの活動での発見と子ども理解

- ・ 子どもへのアプローチ
- ・ 子どもたちの不安や悩み、抱えている問題
- ・ 子どもの居場所作りの重要性
- ・ 子どもたちとのコミュニケーションの大切さ

「**子どもの声**」を聞くことの大切さ、
自分にできることを考える力

The background features a light blue rounded rectangle on a white background. To the left of the rectangle are several decorative elements: a large circle with horizontal lines, a solid blue circle, a grey circle with concentric circles, and a grey circle with a grid pattern. A cluster of small grey dots is positioned near the top left of the blue rectangle. The text '5. 今後の見通し' is centered within the blue rectangle, underlined with a blue brushstroke effect.

5. 今後の見通し

5. 今後の見通し

イベントの開催



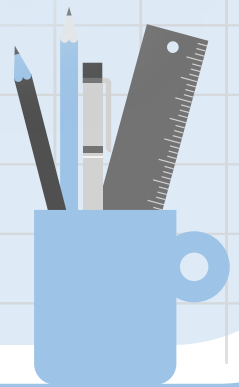
錦織公園を舞台にした子ども向けの
謎解きイベントを企画中!!

詳しい概要はまだ未定ですが、3月30日(日)に富田林市の錦織公園にて、
子ども向け謎解きイベントを開催しようと考えています。

イベント開催までの課題

- ・子どもたちに「**行きたい!!**」と思って貰えるような宣伝をどのようにしていくか
- ・運営側の**人員不足**
- ・イベントの詳細、概要等の確定

ご清聴
ありがとうございました



**令和 6 年度
KLLP
(KONGO Living Lab Project)**

**UR金剛団地における
日本人住民と外国人住民との
多文化共生サポートプロジェクト
発表者 北村、枡矢**

❀経緯と目的❀

急増したUR金剛団地に住む外国人住民（主にネパール人留学生）
と日本人住民との相互理解のきっかけ作り

❀概要と主要日程（開始時の予定）❀

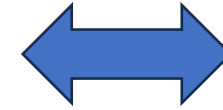
日程	目標	活動
前期（4月～8月）	外国人に日本の文化・習慣を知ってもらう	日本の団地に住む際のマナー動画の作成
後期（9月～12月）	日本人にネパールの文化・習慣を知ってもらう	ネパール祭りの開催（11月30日）

UR金剛団地



外国人住民
ネパール・ベトナム

日本人住民



協働

相互理解

聞き取り

富田林市

社会福祉
協議会

国際交流
協会

協力
情報共有

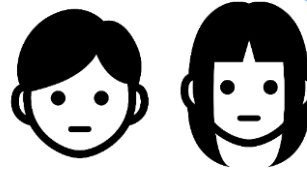
UR

講義

- ・「富田林市多文化共生指針」の理解
- ・社会調査手法を学び聞き取り調査
- ・イベントの企画・広報・運営
- ・成果の調査・報告・振り返り

主体的学び

大阪大谷大学



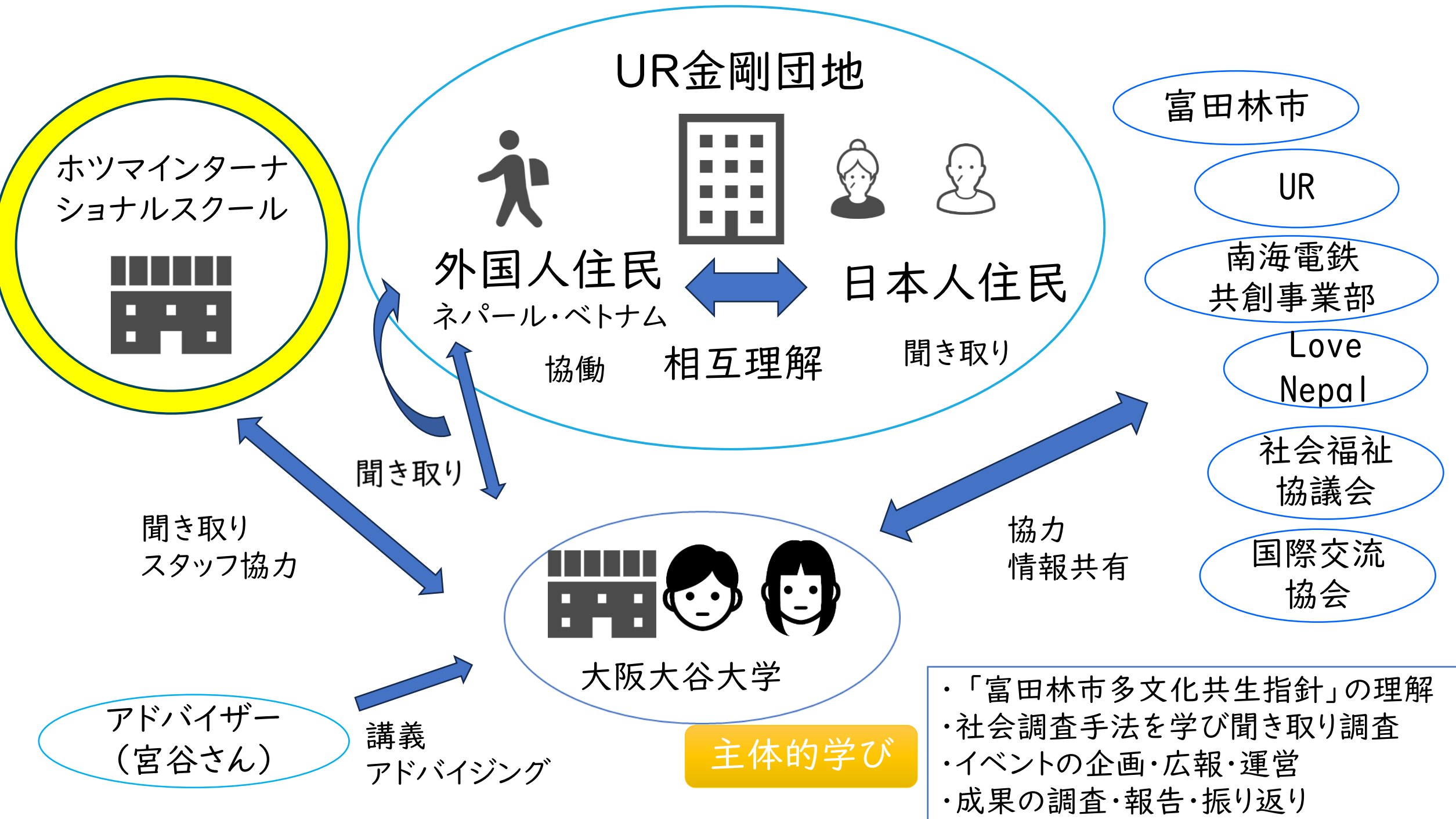
協力
情報共有

見学
聞き取り

聞き取り

宝塚医療大学





前期

富田林市多文化共生推進指針の内容理解



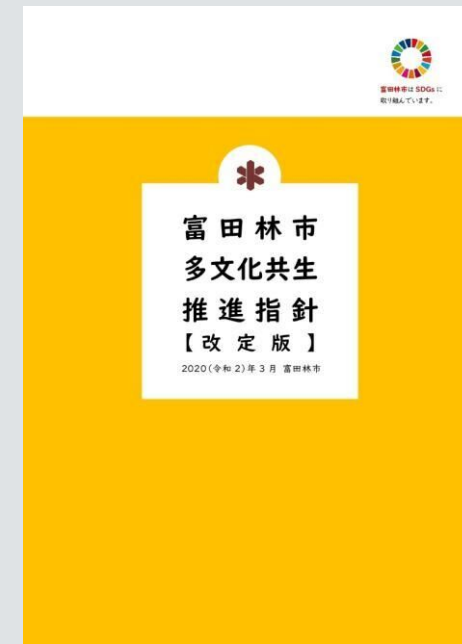
富田林市金剛地区再生室の方から話を聞く



金剛団地にてUR窓口職員の話聞く



留学生の状況を知るためのアンケート作成





阪南大学中西ゼミ主催の ネパールカフェに参加



目的（目標）などについての再確認
最終成果物についての話し合い



代表2名＋先生が宮城県ワークショップ参加、
他大学とともに意見交換を行う



後期

午前：アドバイザーによるプレスリリース講座
＋ワークショップ
午後：学生の企画発表＋FB＋FW



前回は踏まえての意見交換、情報共有、
ネパール祭りについての話し合い

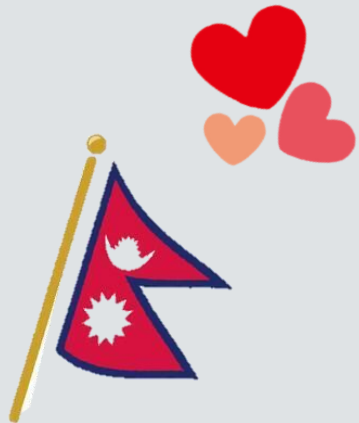


ネパール祭りと今後の活動についての話し合い



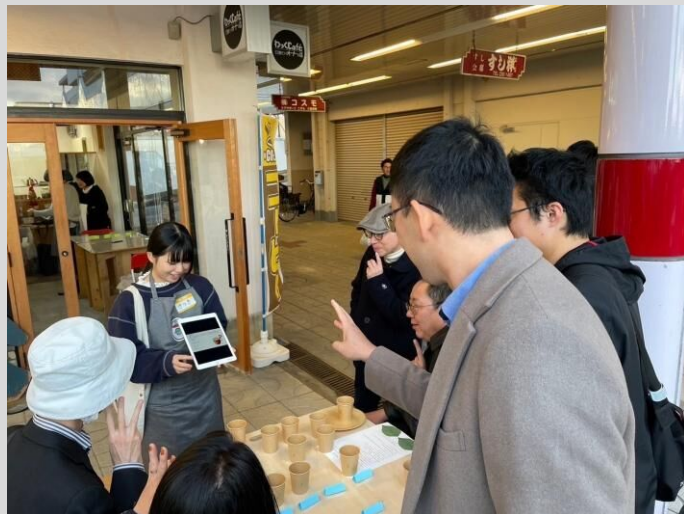
ホツマインターナショナルスクールで、
わくわくカフェで出すお茶・日本での課題について聞く

わくわくカフェ





わくわくカフェ





世界のお茶クイズ



第1問

雨の日にモンゴルではあるものがよく食べられています。
それはいったい何でしょう？

- ①ミルクティーごはん
- ②おすし
- ③餃子の入ったミルクティー
- ④ミルクティーラーメン



こたえは.. ③餃子の入ったミルク
ティー

Banshtai Tsai (バンシタイ・ツアイ)という食べ物で、

日本でいうスープのような食べ物です。
モンゴルでは、雨が降ると、さむくなりやすいので
体をあたためる



れているそう

アンケート結果

どんな人？ ➡ 金剛地区やその他の大阪府が多かった。
10～20代と50代以上が多く参加してくれた。

イベントはどうだった？ ➡ 約90%が「とても楽しかった」と回答。
今後の交流は約70%がしたいと回答。

外国人が増えることに対してどう思うか？

➡ 「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が
約90%を占めた。

理由 ➡ 文化への興味、人口減少や少子高齢化が進む日本で
いい刺激になるのではないかな。

付箋で得た意見

★多文化共生に必要なことや自分ができることについて★

- ・自分たちで互いの文化を理解するべき
- ・コミュニケーションを増やすべき など

★多文化共生のために今後どのようなイベントをしたいか★

- ・「料理」に関するイベント
- ・「交流」ができるイベント など



【取組の成果】学生の学び

期末レポートより

- ・市や大学、企業などの様々なつながりがなければ多文化共生社会は成り立たないということを学んだ。
- ・多文化共生は他国を知ると同じくらい**自国を知ることが重要**であると学んだ。
- ・一人で考え込むのではなく、**周りの意見を聞いて取り入れて**様々な視点から見られたものを今後作っていきたい。
- ・計画を進めるためには**目標設定が重要**であることを学んだ。
- ・**人とのコミュニケーションの大切さ**に気がつき、受動的ではなく**主体的**にならないといけないのだと学んだ。
- ・異文化交流をしたことにより**新しい視点**を獲得した。得た知識や発見を忘れず社会に出てもたくさんの発見ができるように**何事も積極的に**取り組んでいきたい。
- ・人に理解してもらうための算段が必要だと感じた。上手くいかないことがあっても**最後までやり遂げたい**。

金剛地区の住民を対象とした 自己充足度の調査

大阪大谷大学 人間社会学部 人間社会学科
中村ゼミ 2回生

井上和樹・田中秀学・中内太智

はじめに

- 問題意識
 - 近年の金剛地区では空家率が高く、高齢化が進んでいる。
 - 金剛地区には、地域としてどのような課題があるのか。
- 研究課題の選定
 - データサイエンスの学びの一貫として、意識調査を企画
 - 金剛地区において、住民の方々はどの程度の幸福感（自己充足感）をもって暮らしておられるのかについての調査を行う
 - 調査結果から、金剛地区における暮らしに関する課題を抽出する

先行研究によるさまざまな幸福感尺度

著者	尺度の概要	特徴
角野(1994)	5項目からなる日本版「 人生に対する満足尺度 」	大学生や社会人を対象とした調査をもとに、妥当性を検証 後年に渡るまで多用されている
伊藤ら(2003)	WHOが作成したストレス検査尺度をもとに、心理的健康度とストレス度を測定する40項目から17項目を選定した「 主観的幸福感尺度 」	大学生・短大生を対象とした調査をもとに、妥当性を検証
島井ら(2004)	海外で開発された「 主観的幸福感尺度 」(SHS)を日本に適した形で修正したもの	大学生を対象とした調査をもとに、妥当性を検証
高須ら(2019)	NPO法人「日本の安全保障フォーラム」が開発した安全保障指標のうちの「 主観的自己充足度 」	インターネットにより全国を対象とした調査を実施し、他の客観的な統計データとの整合性を検討

本取組で使用した設問項目

- 高須ら(2019)の成果を利用して自己充足度を測定

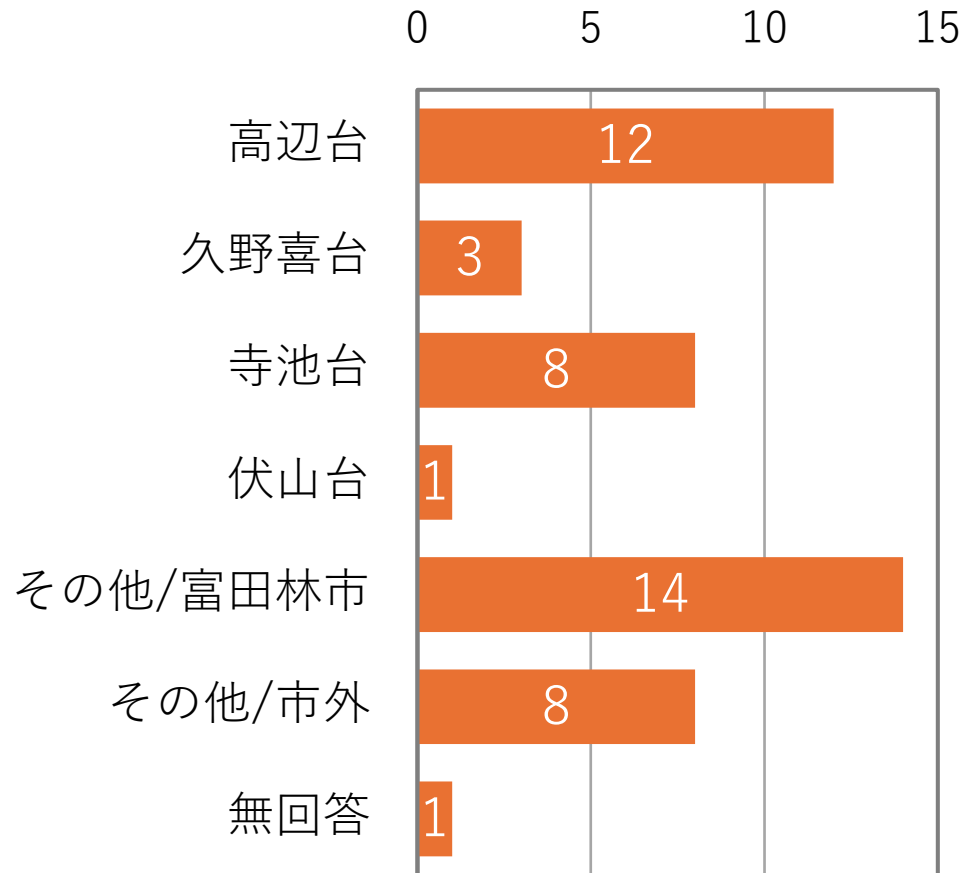
No.	設問
1	地域の絆は強いのか
2	どんなことに自分を最も誇りに思うか（仕事、家族、友人、地元、……）
3	生きがいを感じることは何か（仕事、家族、友人、趣味、社会貢献活動……）
4	人生に満足をしているか
5	人生が将来今より良くなると思うか
6	困った時に相談するのは誰か（家族、友人、先生、同僚、近所の人……）
7	どんな時に孤独で辛いのか（一人のとき、家族といるとき、感じない……）
8	困っている人を助けたことがあるか（仕事、経済的困窮、病気……）
9	地域に外国人が増えることを歓迎するか

調査方法

- 調査方法
 - 質問紙調査
 - 日時：2024年9月28日(土)・11月24日(日)
 - 調査対象：
金剛地区で行われた地域のイベントにて、
参加された一般の方々
- 調査項目
 - 回答者の属性（年齢・性別・在住地区等）
 - 自己充足度の尺度
- 回答数
 - n=47（金剛地区在住者：n=24）

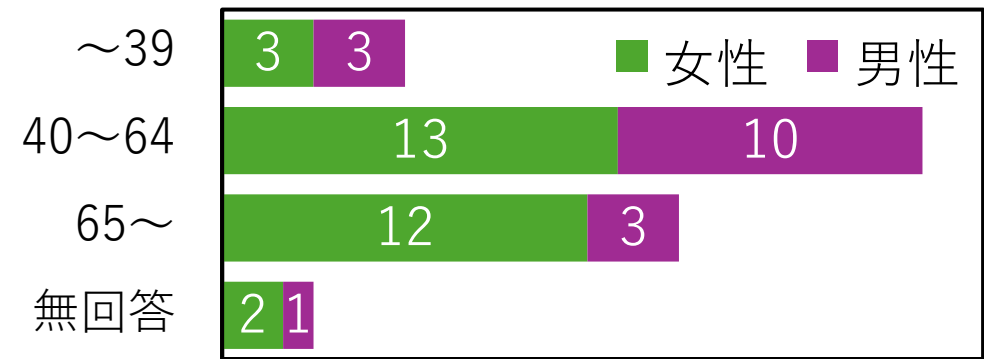
回答者の属性

• 居住地

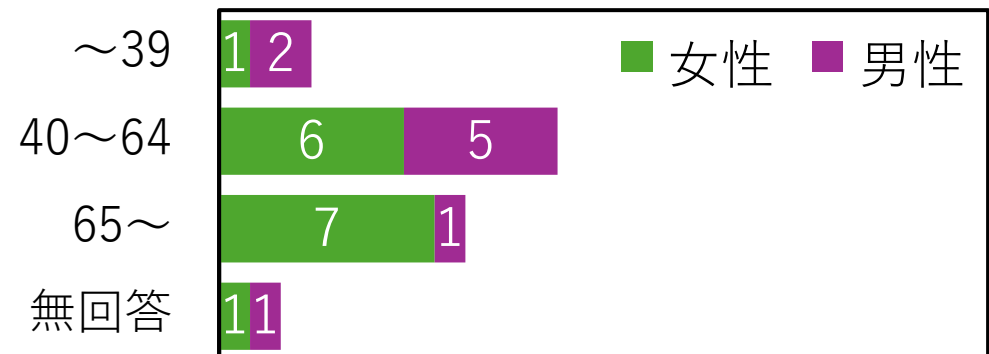


• 性別・年齢

回答者の性別・年齢構成（全体）

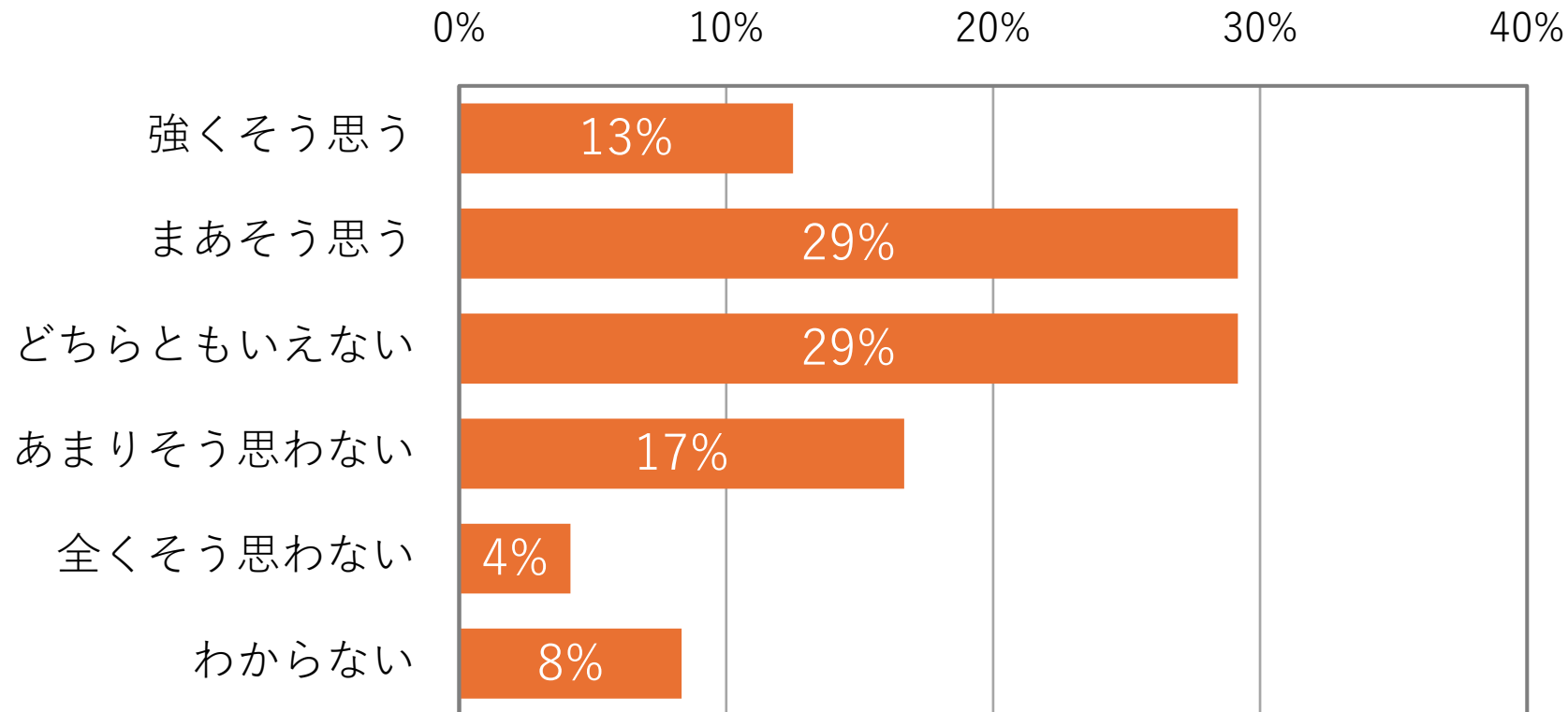


回答者の性別・年齢構成(金剛地区)



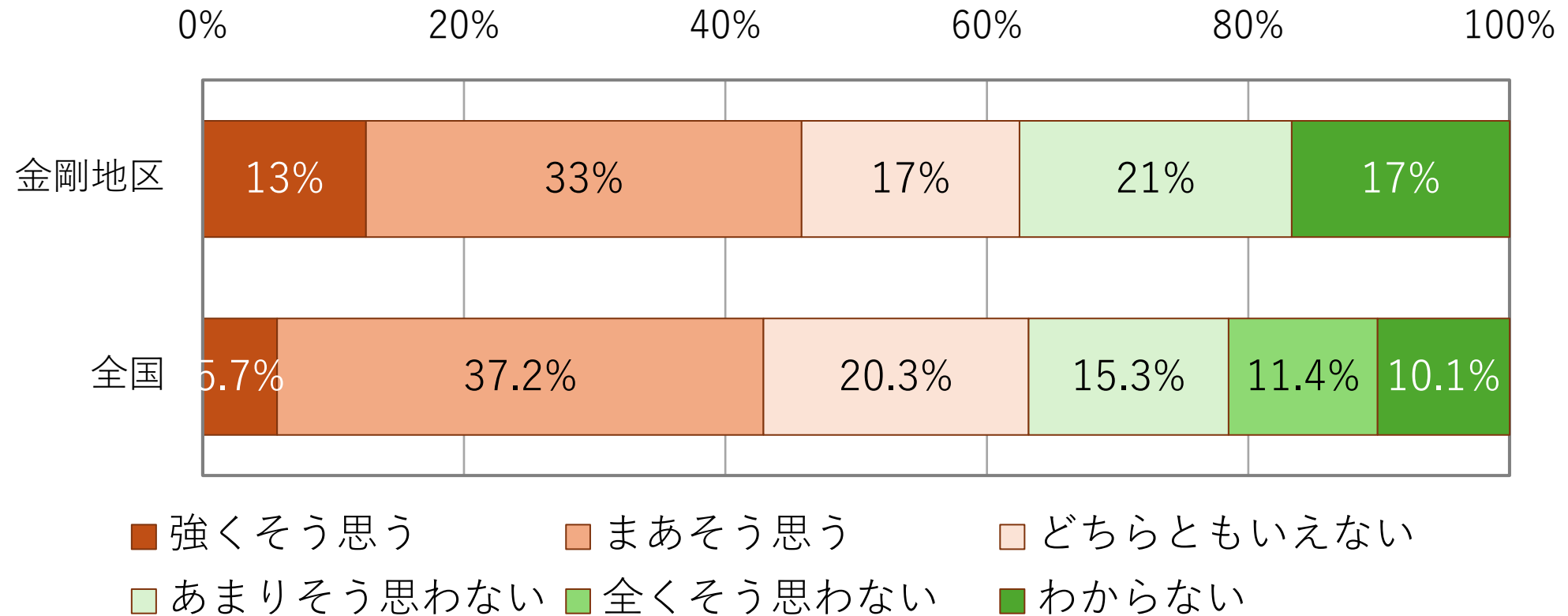
調査結果: 地域の絆

- 問1: お住まいの地域の絆は強いと思うか



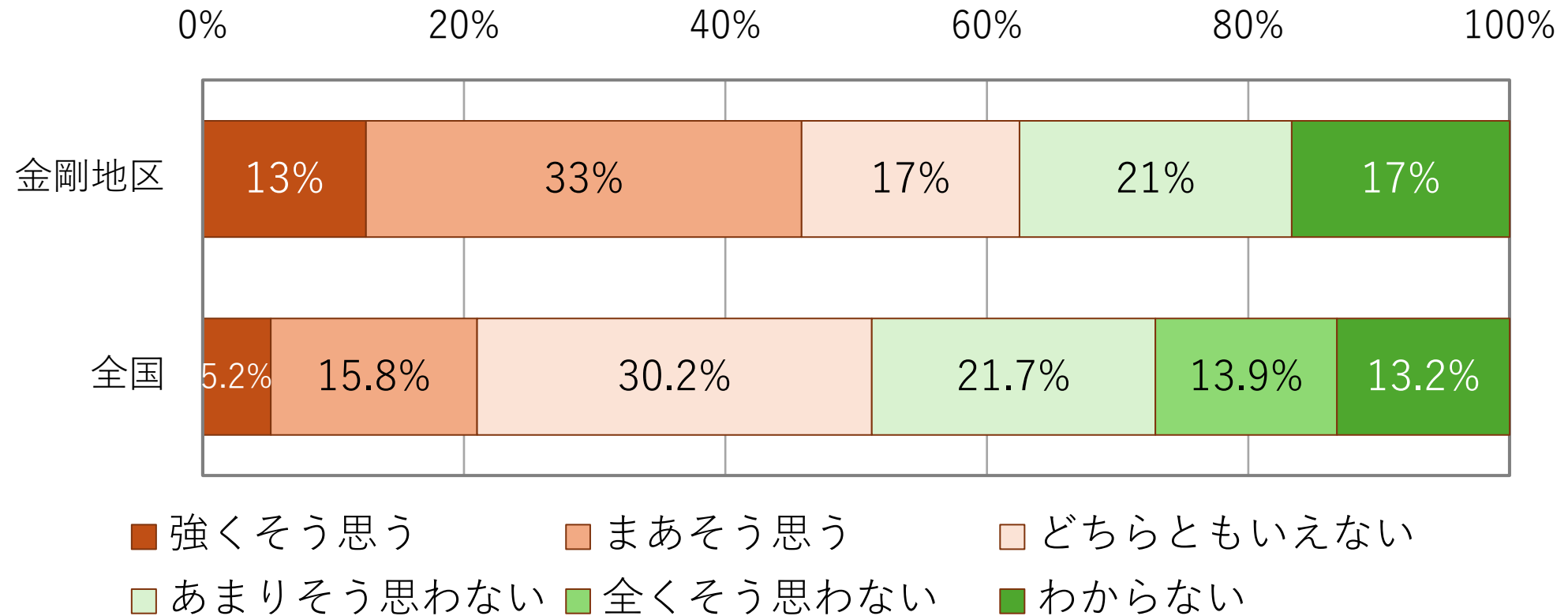
調査結果：自己充足度(1)

- 問4: 自分の人生に満足しているか



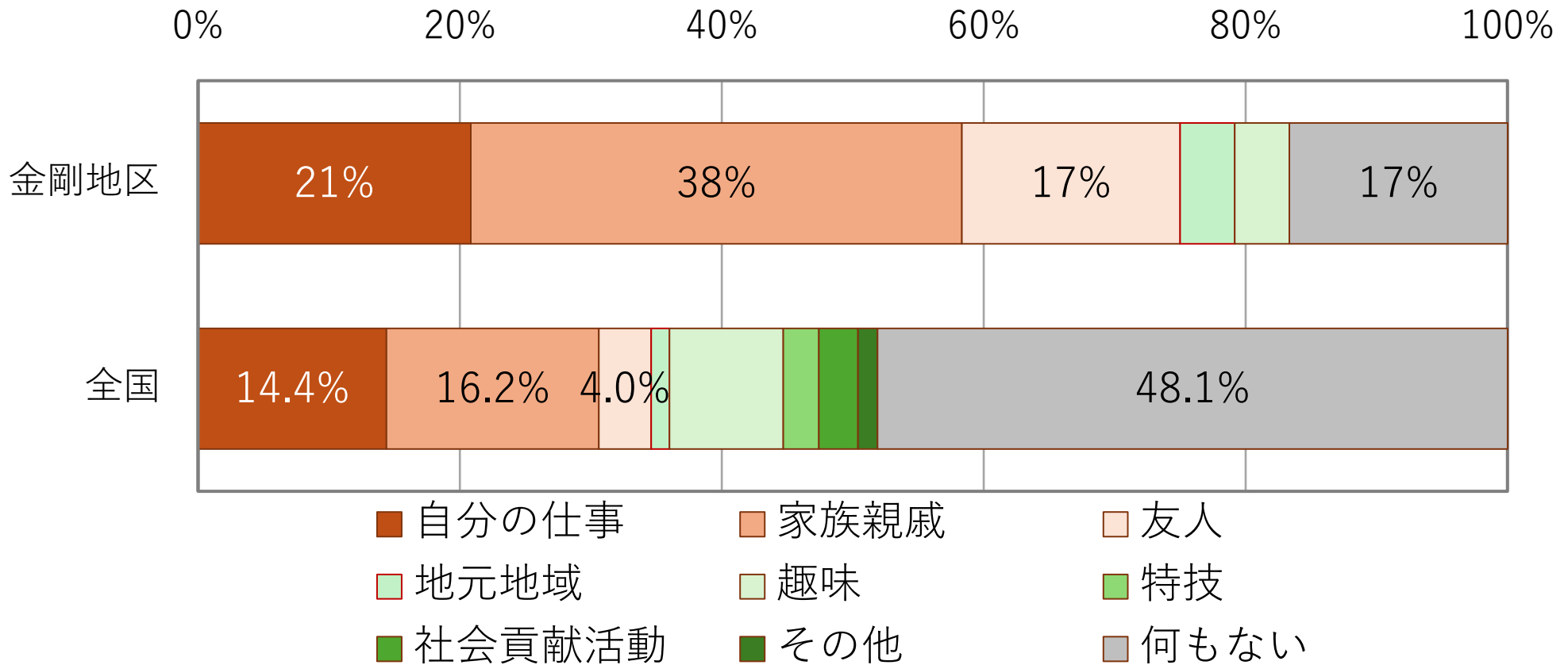
調査結果：自己充足度(2)

- 問5: 自分の人生は将来今より良くなると思うか



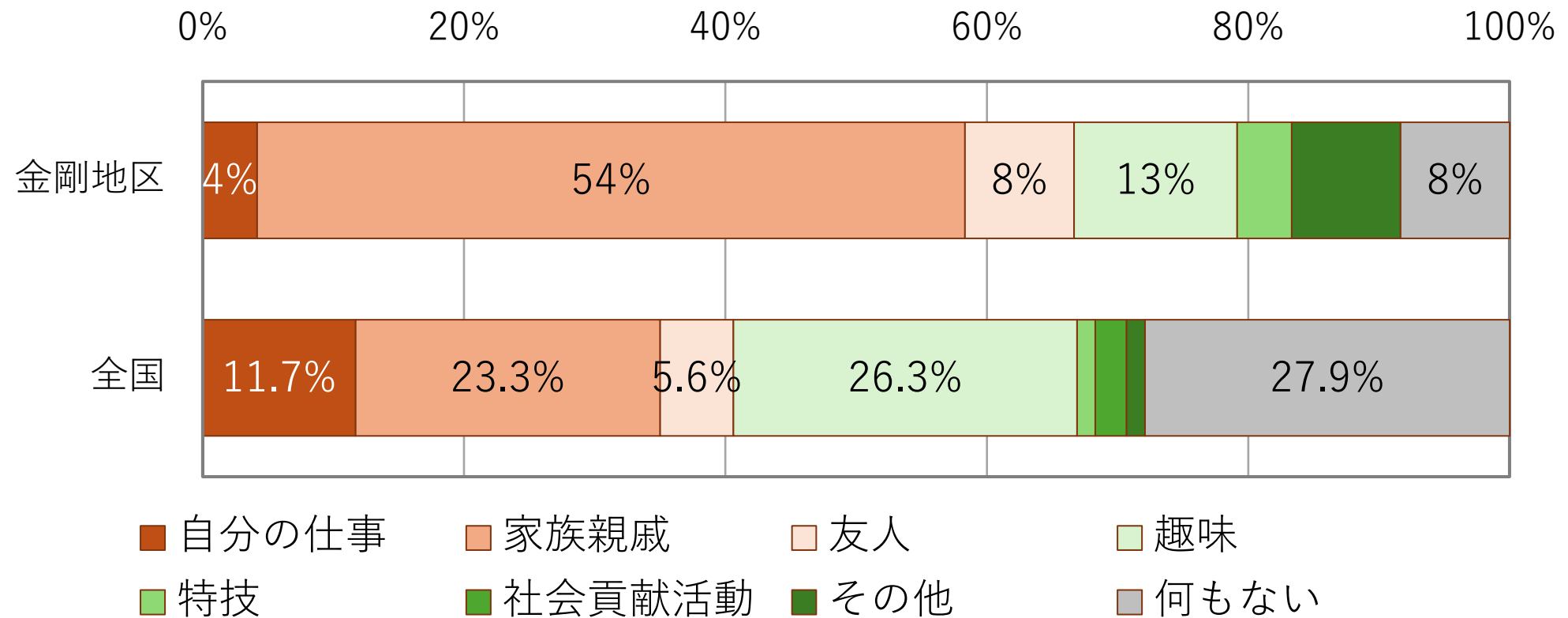
調査結果：自己充足度(3)

- 問2:どんなことに自分を誇りに思うか



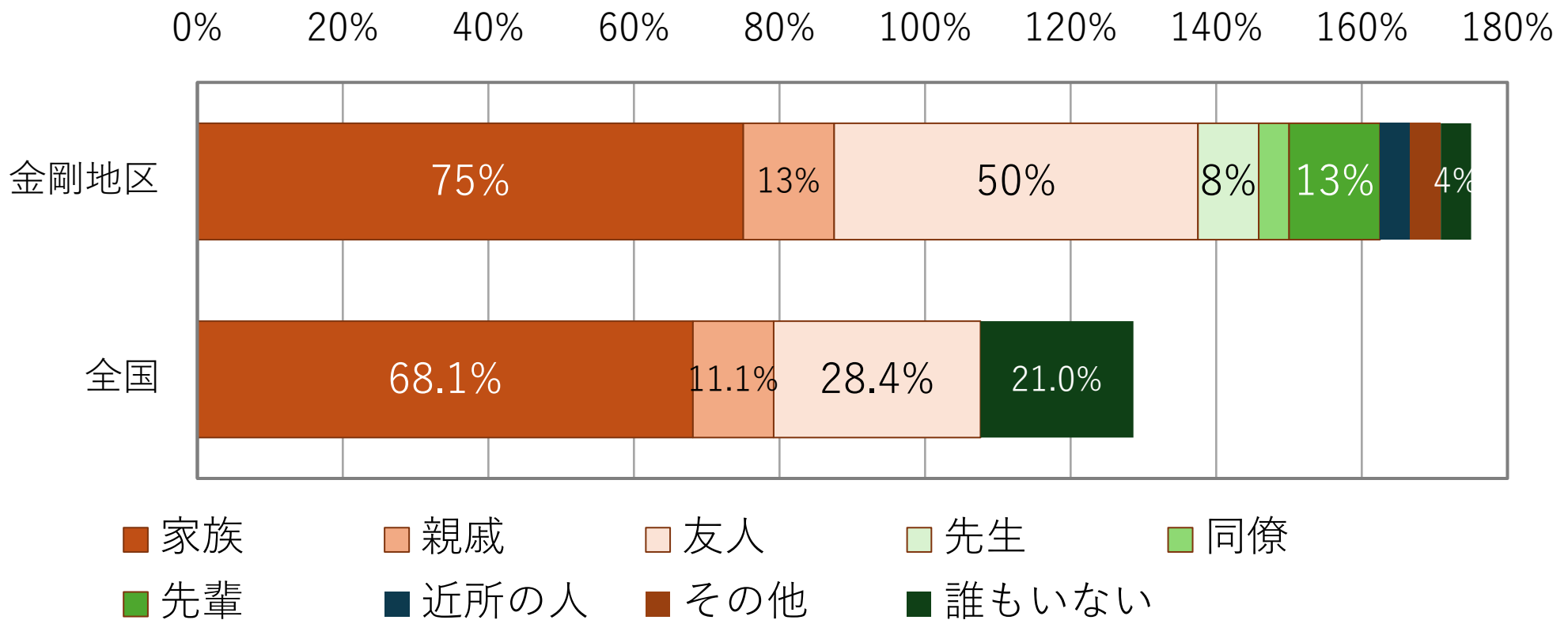
調査結果：自己充足度(4)

- 問3: 最も生きがいを感じるの何か



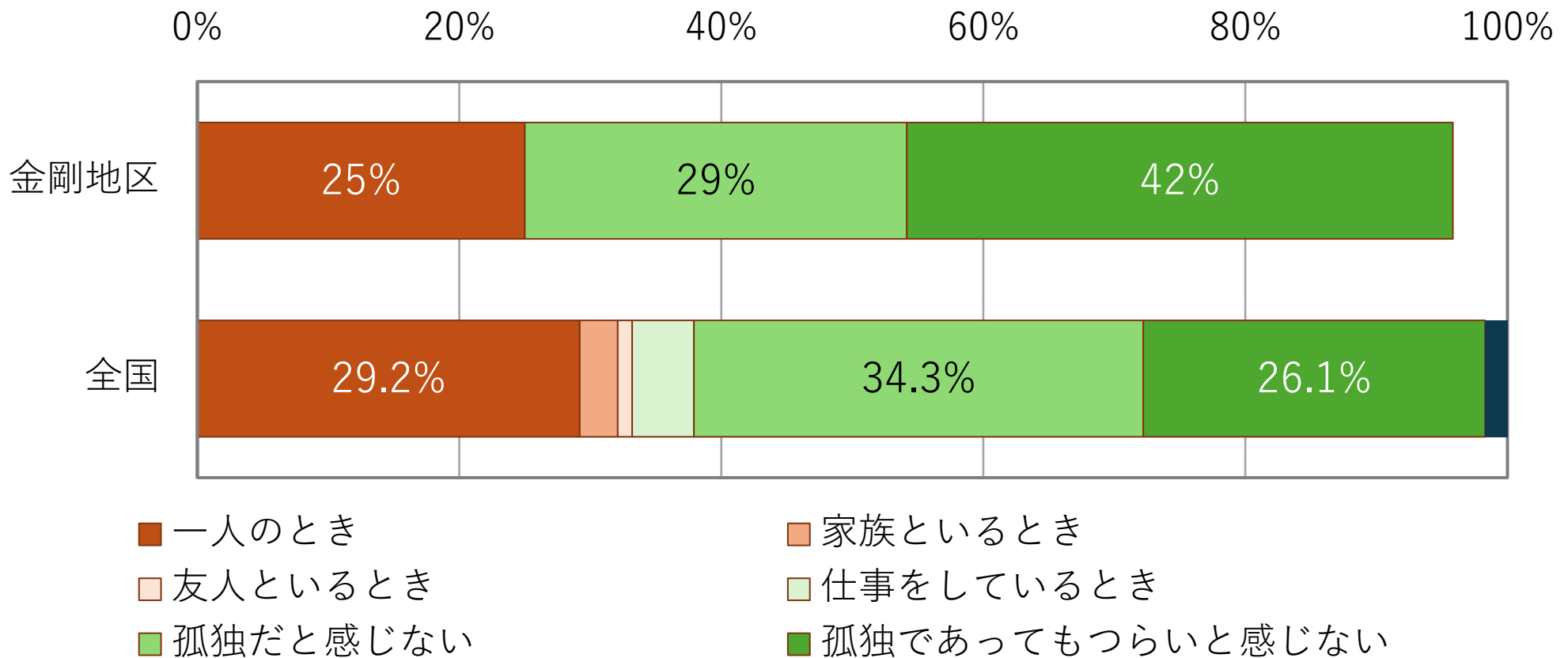
調査結果：連携と孤立(1)

- 問6: 困ったときに相談する相手はいるか（複数回答可）



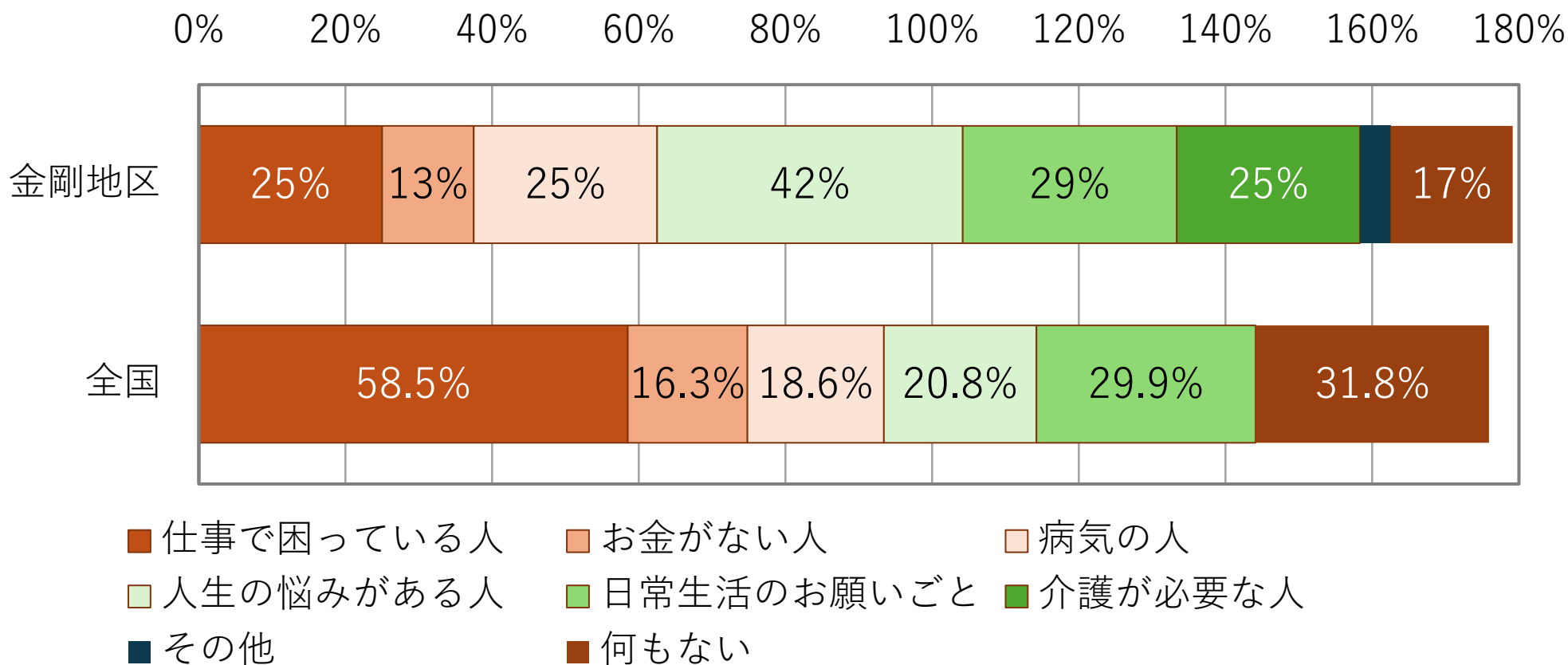
調査結果：連携と孤立(2)

- 問7: どんなときに孤独で辛いと感じるか



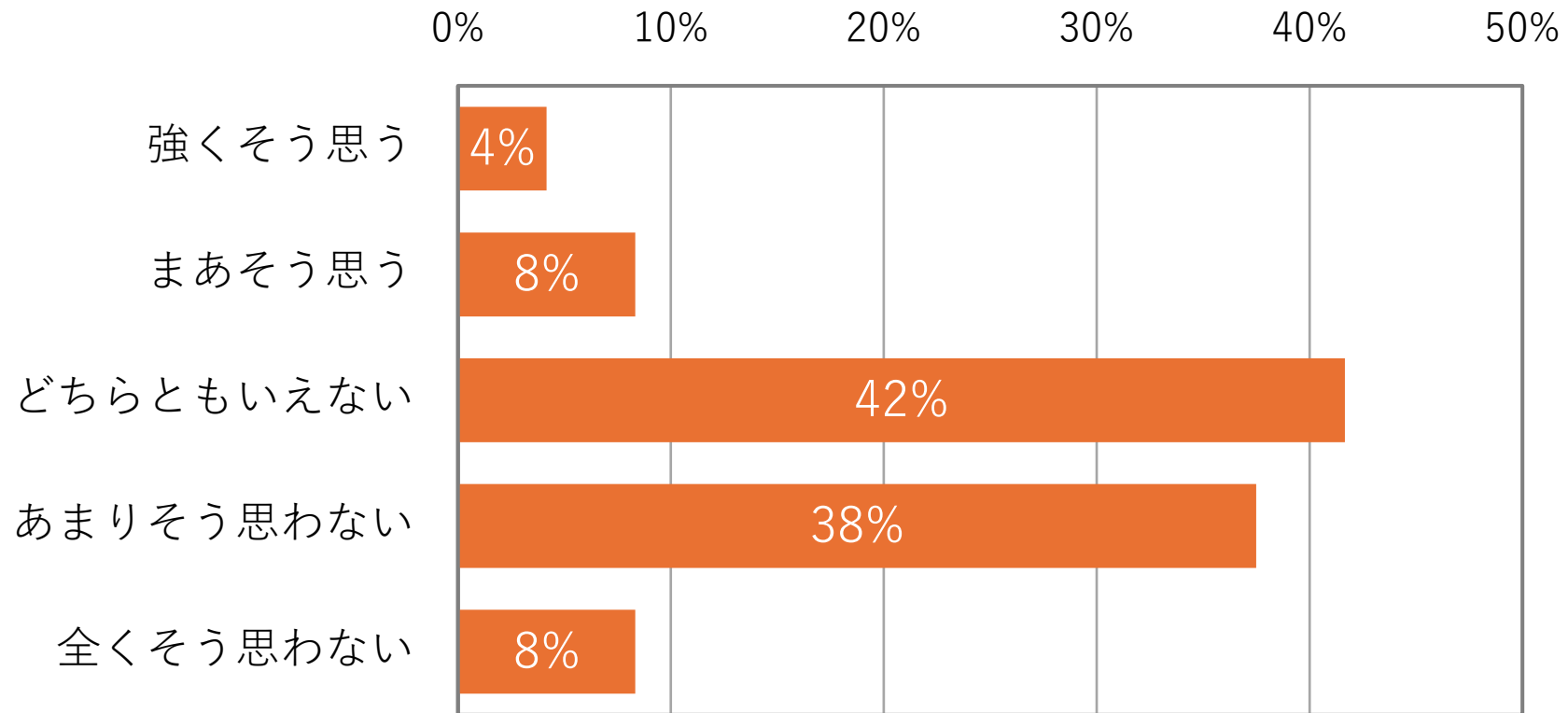
調査結果：連携と孤立(3)

- 問8: 困っているときに人を助けたことがあるか（複数回答可）



調査結果：外国人との共生

- 問1: 地域に外国人が増えることを歓迎するか



考察

- 金剛地区の人たちは自己充足度が高い
 - 全国平均に比べて、ポジティブな意見が多く、自己充足度が高い
 - 家族との連携や自身への肯定が自己充足度の高さにつながっている
 - ほとんどの人が生きがいや誇りを持っている
- 金剛地区の人たちは連携度が高い
 - 一人であっても辛いと感じない人が多い
 - ほとんどの人は相談相手がいる
- 外国人との共生について
 - より多くの交流の機会が期待される

課題

- 調査自体の問題点
 - 回答者数を多く集めることができなかった
 - イベントでの調査であるため、バイアスが発生している可能性がある
→ より広範な調査が望まれる
- 金剛地区の課題の抽出について
 - 課題を抽出することが困難であった
→ 設問の見直し、質的調査の必要性
- 自己充足度（幸福度）について
 - いくつかの尺度について検証が必要

KLLPの活動を通してのふりかえり

- 金剛地区への深い理解
 - 金剛地区のことをより深く知ることができた
 - アンケート結果に意外性を感じた
 - アンケート調査に協力的な人が多かったのがありがたかった
 - 自身の在住地区に比べるとイベント時には、活気や華やかな雰囲気を感じられた。
- 活動を通じた知識・能力の高まり
 - ネットではなく声かけをした調査によって、社会参加の意欲が高まり、意義を感じることができた。
 - コミュニケーション能力が高まった
 - まちづくりを目的としたイベントの意義が理解できた

富田林市の小地域ごとの特徴が分かる 資料・教材作成の試み

大阪大谷大学 江上ゼミナールⅠ（3年生ゼミ）
昆野星流、佐地伸之輔、林緒美、馬殿侑佑、吉川健

1

1

1. はじめに 2. 作成した資料 3. 作成過程の紹介 4. 今後の課題

取組の概要

● 富田林市の小地域ごとの特徴が分かる資料・教材の作成

- e-Stat 等にある既存の統計資料をもとに、
富田林市の小地域ごとのデータを閲覧できるExcel ファイルを作成
- 具体的には、
「小地域別の男女別・5 歳階級別人口データ」
「小地域別の将来人口推計（2025～2050 の 5 年ごとの人口）」
を閲覧できる資料を作成した。

※小地域…「〇〇1丁目」や「大字〇〇」といった区域

2

2

1. はじめに

2. 作成した資料

3. 作成過程の紹介

4. 今後の課題

なぜ「資料・教材作成」の取組を行うのか？

- 大阪大谷大学の学生は、必ずしも元から富田林市に縁のある学生ではないため
- 例えば、本ゼミ5名の学生の中で、活動前から「金剛地区」を知っていた学生は1名のみ（その1名はボランティア活動で訪問経験あり）
- 今後、学生が新たに地域連携活動に取り組む際に、街の概要をあらかじめ把握しやすい資料があると便利ではないかと考えた。

3

3

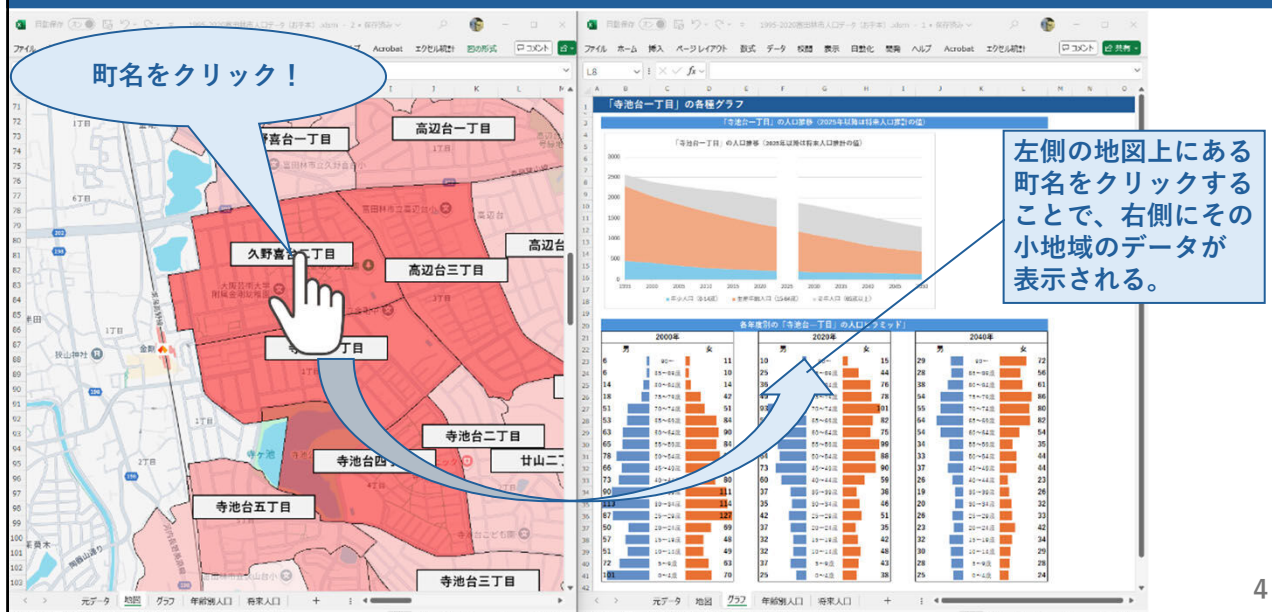
1. はじめに

2. 作成した資料

3. 作成過程の紹介

4. 今後の課題

作成した資料のイメージ



4

4

1. はじめに
2. 作成した資料
3. 作成過程の紹介
4. 今後の課題

作成した資料のイメージ

- というわけで、
実際に作成したファイルをお示しします…

5

5

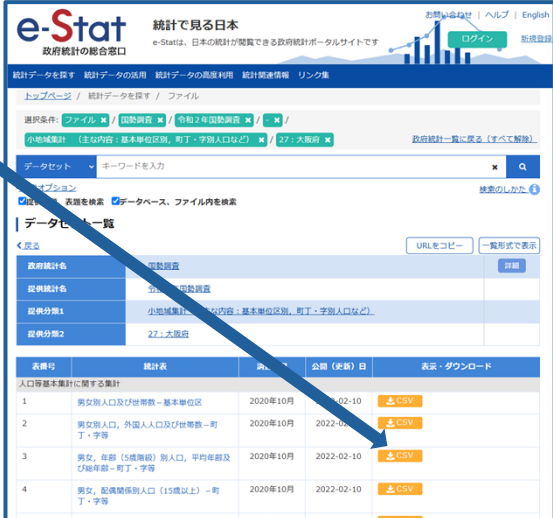
1. はじめに
2. 作成した資料
3. 作成過程の紹介
4. 今後の課題

男女別・5歳階級別の人口データの入手

- 「国勢調査」の小地域集計データを使用
 - e-Statより各年度の国勢調査から、必要なファイルをダウンロードし、データを整理

※使用したデータは
1995,2000,2005,2010,2015,2020年のもの

※ダウンロードしたファイルは
「男女、年齢（5歳階級）別人口、
平均年齢及び総年齢－町丁・字等」



表番号	統計表	調査年	公開（更新）日	表示・ダウンロード
人口等基本集計に関する集計				
1	男女別人口及び世帯数－基本単位区	2020年10月	2022-02-10	CSV
2	男女別人口、外国人口及び世帯数－町丁・字等	2020年10月	2022-02-10	CSV
3	男女、年齢（5歳階級）別人口、平均年齢及び総年齢－町丁・字等	2020年10月	2022-02-10	CSV
4	男女、配偶関係別人口（15歳以上）－町丁・字等	2020年10月	2022-02-10	CSV

6

6

1. はじめに 2. 作成した資料 3. 作成過程の紹介 4. 今後の課題

男女別・5歳階級別の人口データの整理

●ダウンロードした小地域集計データを整理

- 年度によって項目が違う場合があるため
それを整理して、1枚のシートにまとめる

例：2005年のデータ 2010年のデータ

5市町村コード	町丁字コード	秘匿処理	秘匿先情報	合算地域	市区町村	町丁字
7187	27214 0352				富田林市	桜ヶ丘町
7188	27214 0353				富田林市	大字甘山
7189	27214 0360				富田林市	新家
7190	27214 036001				富田林市	新家1丁目
7191	27214 036002				富田林市	新家2丁目
7192	27214 0370				富田林市	加太
7193	27214 037001				富田林市	加太1丁目
7194	27214 037002				富田林市	加太2丁目
7195	27214 037003				富田林市	加太3丁目
7196	27214 0380				富田林市	青葉町

7市町村コード	町丁字コード	地域識別番号	秘匿処理	秘匿先情報	合算地域	都道府県名	市区町村名	大字・町名	字・丁目名
7222	27214 0343	2				大阪府	富田林市	大字甲田	
7223	27214 0350	2	秘匿地域	035101		大阪府	富田林市	大字甘山	
7224	27214 0351	2				大阪府	富田林市	甘山	
7225	27214 035101	3	合算地域あり	0350		大阪府	富田林市	甘山	1丁目
7226	27214 035102	3				大阪府	富田林市	甘山	2丁目
7227	27214 0352	2				大阪府	富田林市	桜ヶ丘町	
7228	27214 0353	2				大阪府	富田林市	金剛緑蔭台	
7229	27214 0360	2				大阪府	富田林市	新家	
7230	27214 036001	3				大阪府	富田林市	新家	1丁目
7231	27214 036002	3				大阪府	富田林市	新家	2丁目

地域名の記載の仕方が違う

同じ町なのに
コードの数値がずれている
場合がある

7

1. はじめに 2. 作成した資料 3. 作成過程の紹介 4. 今後の課題

将来人口推計に必要なデータの入手

●国立社会保障・人口問題研究所のウェブサイトから必要なデータの入手

- 将来人口推計に必要な
「生残率」
「純移動率」
「子ども女性比」
「0～4歳性比」
の富田林市の指標を入手



4. 都道府県・市区町村別の将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比

※【解説】「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比について」 (A4サイズで計2ページ; PDF)
: 各指標の概略と推計の手順の説明です。

- ・【全都道府県・市区町村一括ファイル】 都道府県・市区町村の将来の生残率 (Excel 約3.0MB)
- ・【全都道府県・市区町村一括ファイル】 都道府県・市区町村の将来の純移動率 (Excel 約4.1MB)
- ・【全都道府県・市区町村一括ファイル】 都道府県・市区町村の将来の子ども女性比・0～4歳性比 (Excel 約0.5MB)

※都道府県別に整理したファイルは[こちら](#)を参照してください。

※市町村別にそれぞれの指標に関する
計算結果が掲示されている

8

8

1. はじめに

2. 作成した資料

3. 作成過程の紹介

4. 今後の課題

将来人口推計の計算

● 0～4歳以外の場合

- 例えば、2025年の5～9歳の男性人口を推計するには
※「2020年の0～4歳の男性人口」×（生残率+移動率）

● 0～4歳の場合

- 例えば、2025年の0～4歳の総人口を推計するには
上の方法で推計した「2025年の20～49歳の女性人口」をもとに計算する
※「2025年の20～49歳の女性人口」×「子ども女性比」
- 2025年の0～4歳の女性人口を推計するには
上の方法で推計した「2025年の0～4歳の総人口」と
「0～4歳性比（女性が100人としたときの、男性の人数の数値）」を使用する
※「2025年の0～4歳の総人口」× $[100 / (「0～4歳性比」 + 100)]$

9

9

1. はじめに

2. 作成した資料

3. 作成過程の紹介

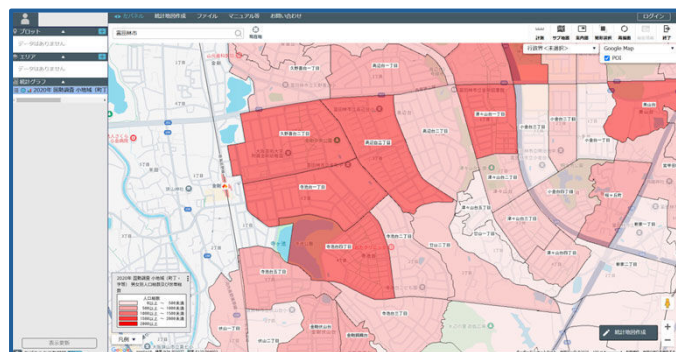
4. 今後の課題

富田林市の地図データの入手

● 「jSTAT MAP」にて小地域の区画が分かる地図を入手

- jSTAT MAPの「統計地図作成」→「統計グラフ作成」機能で
小地域別の人口を可視化する地図を作成
- スクリーンショットで保存し「ペイント」で画像をつなぎ合わせる

- ※「統計グラフ作成」
- 集計地域を「小地域（町丁・字等）」
 - 統計名を「国勢調査」
 - 年を「2020年」
 - 統計表を
「男女別人口総数および世帯数」
 - 指標選択で「人口総数」
を指定して作成



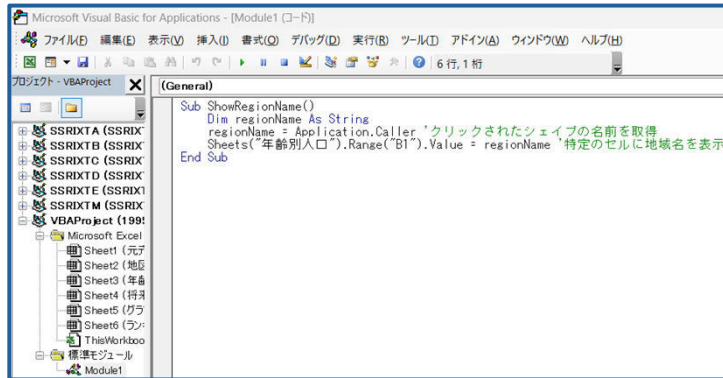
10

10

地図画像にマクロを登録

● 作成した地図画像をExcelファイルに貼り付けて設定

- 作成した地図の上に
小地域の名称を記載した図形を作成していく
- 各図形に「マクロの登録」を行う



11

11

取り組んでの感想

● 地道な作業の重要性

- 資料を作成するにあたって、関数やマクロといった技術的なスキルだけでなく、資料収集やデータ整理、ミスの有無の確認など、地味で地道な作業が重要であることが分かった。

● データと現場感覚

- データで分かることと、現地に赴いて分かることがそれぞれあり、今回の活動では現地に赴くことはできなかったが、それぞれどちらも重要であると感じた。

12

12

1. はじめに	2. 作成した資料	3. 作成過程の紹介	4. 今後の課題
---------	-----------	------------	----------

今後の課題

- **さらなるデータの取得**
 - 国勢調査の他のデータもまた閲覧できるようにしたり、Google Mapのスポットデータを取得して整理するなど、地域別の特徴がもっとわかるようなデータを取得したい。
- **「見やすさ」の向上**
 - Excelファイルではなく、インターネットブラウザ上で見えるようにするなど、もっと気軽に閲覧できるようにしたい

スポットデータの例

地域別に、どういった施設が多いかまとめられれば、地域の特徴が分かりやすいかも？ Google Maps Platform という機能を活用することでデータ取得できるらしい

13

13

1. はじめに	2. 作成した資料	3. 作成過程の紹介	4. 今後の課題
---------	-----------	------------	----------

参考資料

- 「e-Stat 政府統計の総合窓口」
<https://www.e-stat.go.jp/>
 (最終閲覧日：2025/02/04)
- 「地図で見る統計 (jSTAT MAP)」
<https://jstatmap.e-stat.go.jp/trialstart.html>
 (閲覧日：2025/02/04)
- 「国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口 (令和 5 (2023) 年推計)」
<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>
 (閲覧日：2025/02/04)

14

14